

平成 30 年度冬山合宿報告

1) 南アルプス・赤石岳 東尾根隊の記録

L:Y.I、S:L: K.U、他 11 名

12/29 15:01 昨日赤石小屋まで登り、今日は行けるところまで行って今小屋に戻る途中です。みんな元気です。



富士見平から赤石岳 12/30 6:42 K

12/30 12:21 赤石小屋では電波はいらないです。富士見平でメールしてます。無事山頂から下山中です。By K.



12/30 12:29 今日、山頂組無事に山頂踏んで、避難小屋までもどれそうな所まで降りてきました。明日下山予定です。By K

12/31 14:58 K.U です。

冬山合宿 後半隊も無事下山しました。

12/30 快晴のなか、5 名で赤石岳を登頂できました。他 4 名は富士見平まで登りました。

前の日にトレースをつけて頂いた Y.I さん達のおかげで登ることが出来ました。ありがとうございました。



赤石岳山頂 | 君



赤石岳山頂にて…登頂おめでとう

赤石岳東尾根隊及び赤石岳転進隊の皆さんお疲れ様です。特に S さんには大変活躍してもらいました。女性陣には目にハートマークが出るほど人気でした。

この山行は 3 年前冬の聖岳東尾根を登った際に隣に見えた赤石岳東尾根がとても綺麗に見えて次はここを登ろうと誓った事から始まっています。そんなこと誓った記憶は無いと聖岳隊のメンバーは言うかもしれませんが、赤石岳にはその時のメンバー 4 人が集まりました。

代表として K 君には山頂まで行ってもらい誓いを達成してもらいました。ありがとう。

Y.I

2) 四国 剣山、石鎚山隊の記録

12/28 晴のち曇のち雪のち雨

6時過ぎ予定通り徳島着。レンタカーを待つ間に朝食を済ませ、30日までの食料を購入して剣山の登山口“見ノ越”へ向かう。見ノ越に近づくにつれ車道に雪が現れる。

天井のある駐車場に車を止めて出発準備。剣神社でお参りをしして登り始める。緩やかな登りでリフトの終点、西島駅へ到着。コースを調べて少し遠回りになるが大剣神社を経由して、刀掛松へ出る。西島駅から登ってくる道と合流。ここから少し登りは急になるがひと息頑張れば大鳥居が現れる。

すぐ上に小屋が見え小屋の間の階段を登ると電波塔が左斜め前に見える。その横の木道を辿れば頂上に着く。ガスっていて視界はほとんど利かず、記念写真を撮って小屋まで戻る。



剣山頂上にて（撮影 Y）12月28日

美馬まで下って、今日は道の駅にテントを張ることとし、道の駅「三野」へ行く。丁度着いた頃には暗くなっていて屋根のある所にテントを張る。お陰で夜中に雨に降られたが全然濡れることなく、快適な一夜を過ごす。晩飯はすき焼きでこれも満足。

12/30 曇、山頂付近は霧

明るくなったら出かけようということで起きるが、時間で行動を始める。出発時はヘッドランプを使用しなければならなかった。少し下って登りになるが、何と階段の多い所か。滑らないように気をつけて登る。

鎖場は3ヶ所あり、すべて巻き道を利用する。2の鎖の傍に避難小屋とトイレがあり、中は3名程が泊まれるようになっている。途中すれ違った女性はここで泊まったようである。

頂上少し手前に案内板が立っていたが、その上を見ると小さな可愛らしい雪だるまが乗

っていた。小さいながら一人前に顔には目鼻がついている。手の代わりに笹の葉が付けられていたが、これが風に揺られてまるで手招きをしているように見え、何とも微笑ましかった。



看板の上には可愛い雪ダルマが鎮座して

そんなに長時間歩いている訳ではないが結構疲れ、ようやく頂上を踏むという状態だった。せっかく頂上に立っても今日も何も見えない。天狗山がどっちかもわからない。建物の位置から判断して下を除くと鎖が見つかる。

Y君はどうしても天狗山まで行きたいようで、鎖を利用して下りてゆく。

「全然視界がきかないし、無理しない方がいいんじゃないか」という事で、「Yくーん、やめよう、見えないんじゃない仕方がない。」と呼び戻す。



石鎚山山頂にて なーんにも見えない

かくして石鎚山の山行は終了となる。下山はさらに安全第一で、もと来た階段を慎重に下りテントへと戻る。今日は日曜日だからか、年末だからか登山者が結構登ってくる。何組かの登山者に上（先）の状態を聞かれた。

早々にテントを撤収しロープウェイの上の駅まで歩きロープウェイに乗る。

宿泊は道の駅「風和里（ふわり）」となる。